



婦人科検診 Q&A



Q1. どのような検査がありますか？

A1. ①腫瘍マーカー ②子宮頸がん ③経膈超音波 ④子宮体がん ⑤ハイリスク HPV 検査があります。

Q2. ①腫瘍マーカーとはどのような検査ですか？

A2. がんになると、健康なときにはあまりない物質が腫瘍から産生され、血液中に見られることがあります。それを「腫瘍マーカー」といい、血液検査で調べることができます。

「CA125」は主に卵巣がんで高値となります。子宮体がんや子宮頸がん、良性の婦人科疾患（子宮内膜症や子宮筋腫など）でも上昇することがあります。

婦人科検診と併せて総合的に判断する必要があります。

また、妊娠中、生理中でも上昇することが多いため、妊娠中、生理中を避けて検査されることをお勧めします。

Q3. ②子宮頸がん検査とはどのような検査ですか？

A3. 内診をして、子宮の入り口である子宮頸部をこすって細胞を採取し、がん細胞がないかどうかを見る検査です。

Q4. ③経膈超音波検査とはどのような検査ですか？

A4. 膈内に細長い器具を挿入し、子宮や卵巣の形状を見る検査です。子宮筋腫、卵巣のう種、子宮内膜症、子宮内膜ポリープなど、内診だけではわからないさまざまな疾患の発見が可能です。



Q5. ④子宮体がん検査とはどのような検査ですか？

A5. 子宮がんには入り口のところにできる子宮頸がん、奥にできる子宮体がんという2つのがんがあります。子宮体がんは近年増加傾向にあります。

子宮体がん検査は子宮の中に細い器具を入れ、子宮内膜の細胞を採取する検査です。痛みや出血を伴うことがあります。また、高齢者や自然分娩の経験のない方の場合、子宮口が小さいため、細胞が採取できない場合があります。

Q6. ⑤ハイリスク HPV 検査とはどのような検査ですか？

A6. 子宮頸がんの原因は、ほぼ 100%が性交渉によって感染するヒトパピローマウイルス (HPV) です。

発がん性のあるハイリスク HPV の有無を知ることは子宮頸がん発症のリスクを知る上で重要です。

陽性の方は、子宮頸がん検査をより頻回に受ける必要があります。

性交経験のある女性は検査をお勧めします。

検体採取は子宮頸がん検査と同時に行いますので、必ず②とあわせてお申し込みください。

Q7. 手術をして子宮をとりました。検査できますか？検査する必要がありますか？

A7. 子宮がない方でも①腫瘍マーカー ②子宮頸がん ③経膈超音波 は検査できます。

②では子宮頸がん検査の代わりに膈がん検査を行います。

Q8. 妊娠中ですが、検査できますか？

A8. ②子宮頸がん ③経膈超音波 ⑤ハイリスク HPV は検査できます。

①腫瘍マーカーも検査できますが、妊娠中・生理中は上昇することが多いため、この期間を避けて検査されることをお勧めします。

Q9. 婦人科検診を初めて受けます。どのように検診は行われるのでしょうか？

A9. 検診の流れは以下ようになります。

a) ズボンと下着を脱いで診察台に座ります。

b) 自動で診察台が動き、診察の体位となります。

作動中は安全の為、動かないでください。

* 診察の体位：両足を開いた状態（膈からの診察となる為）

（注意）足が開きにくい方は事前にお申し出ください。

診察台を調整いたします。

